

2013年3月22日

## ランクセス、2012 年度通年の業績を発表

～ 好業績を達成 ～

ランクセス株式会社

- 2012 年度配当提案:1 株 1.00 ユーロ(前年比 18%増)
- 従業員への業績賞与は総額 1 億 1,500 万ユーロを予定
- 2013 年度第 1 四半期の特別項目調整前 EBITDA は 1 億 6,000 万～1 億 8,000 万ユーロを予測
- 2013 年 9 月 3 日、ケルンにてグループ本社の新社屋の開所式

ドイツの特殊化学品メーカーのランクセス(LANXESS)は、2012 年度通年の業績を発表しました。2012 年度は好業績を達成し、特に主要指標となる数値は大幅に向上しました。ランクセスの CEO であるアクセル C.ハイトマンは、デュッセルドルフで行われた年次記者会見で次のように述べています。「2012 年度は、ランクセス設立以来、我々の成長軌道の中で最高の結果を残した年となりました。これは、当社の独自のビジネスモデルが奏功した結果です」

ランクセスは、2013 年 3 月 7 日に発表済みの、2012 年度の業績速報値を確認し、グループの通年の連結売上高は、前年比 4%増の 90 億 9,400 万ユーロとなりました。特に、新興国市場への注力、農薬分野の堅調な需要、買収による増収効果、「販売量よりも価格を優先する」戦略が、好業績を牽引しました。

特別項目調整前 EBITDA は、前年比 7%増の 12 億 2,500 万ユーロ(前年:11 億 4,600 万ユーロ)を達成し、当社の予測範囲内(前年比 5%～10%増)に収まりました。特別項目調整前 EBITDA マージンは、13.5%(前年:13.1%)となりました。純利益は 5 億 1,400 万ユーロ、1 株あたり利益(EPS)は 6.18 ユーロとなり、それぞれ前年比 2%増となりました。

ランクセスは、2013 年 5 月 23 日に開催される年次株主総会において、2012 年度の配当金として 1 株あたり 1 ユーロを提案する予定です。この場合、前年比約 18%増となり、配当総額は約 8,300 万ユーロとなります。

好業績を受けて、従業員にも業績賞与として、総額約 1 億 1,500 万ユーロ(前年:約 1 億ユーロ)が支給される予定です。

## 地域別業績

**アジア太平洋地域**は、2012 年度には、ランクセスにとって再び堅調な業績の要因となりました。売上高は、前年比約 10%増の 22 億ユーロとなりました。中華圏(香港、中国本土、台湾)における売上高は、初の 10 億ユーロ超えを記録しました。

**北米地域**の売上高も堅調な伸びを示し、前年比 10%以上の増加となり、約 16 億ユーロとなりました。

**EMEA(ドイツを除く欧州、中東、アフリカ)地域**の売上高は、前年比 1%減の微減となりましたが、25 億ユーロを達成し、引き続きグループ最大の売上高を誇る地域となりました。

**ドイツ**の売上高は、前年比では微増となり、約 16 億ユーロとなりました。

**BRICS 諸国(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)**の売上高は、前年比 1%増の約 22 億ユーロとなりました。

## 事業分野別の業績

**パフォーマンスポリマーズ部門**は、堅調な業績を示し、2012 年度も引き続き部門別売上高で最大となりました。記録的な業績を達成した前年比 2%以上の増加となり、約 52 億ユーロを達成しました。自動車およびタイヤ産業に供給するブチルラバー、パフォーマンスブタジエンラバーズ、テクニカルラバープロダクツの各ビジネスユニットは、販売量の減少となりました。しかし、2011 年度に買収した EPDM 事業(「ケルタン(Keltan<sup>®</sup>)」)がポートフォリオ全体に好影響を与え、売上高を支えました。特別項目調整前 EBITDA は、前年比 6.4%増の 8 億 1,700 万ユーロとなりました。

**アドバンスト中間体部門**の売上高は、前年比 8%以上の増加となり約 17 億ユーロを達成しました。主に、農薬分野の継続した旺盛な需要が原動力となっています。アドバンスト工業化学品およびサルティゴの両ビジネスユニットは、この需要から恩恵を得ました。サルティゴの事業活動は、さらに農薬分野にシフトしています。特別項目調整前 EBITDA は、前年比約 16%増の 3 億 500 万ユーロとなりました。

**パフォーマンスケミカルズ部門**の売上高は、前年比 3%以上の増加で約 22 億ユーロとなりました。ゴム薬品およびラインケミーの両ビジネスユニットの販売量は減少しました。両ビジネスユニットの大半の売上高は、自動車産業の顧客が占めています。物質保護剤、機能性化学品、ラインケミーの各ビジネスユニットによる買収がプラス効果となりました。特別項目調整前 EBITDA は、前年比約 3%減の 2 億 8,100 万ユーロとなりました。これは、エネルギーおよび製造コストの高騰が主要因となります。

### 「グリーンモビリティ」

2012年度の「グリーンモビリティ」を対象とした製品および技術の売上高は約16億ユーロとなりました。これは、全体の売上高の約17%を占めています。ランクセスは、2015年度までにこの「グリーンモビリティ」関連製品の売上高を約27億ユーロに引き上げる数値目標を掲げています。

### 健全な財務基盤

好業績を反映し、営業キャッシュフローが増加し、健全な財務安定性を達成しました。設備投資費額は、6億9,600万ユーロ(前年:6億7,900万ユーロ)に増加しました。2012年度の営業キャッシュフローは、順調に推移しました。運転資本が増加したにもかかわらず、営業キャッシュフローは、8億3,800万ユーロ(前年:6億7,200万ユーロ)に増加しました。

ランクセスのCFOであるベルンハルト・デュットマンは次のように述べています。「2012年度末の純金融負債は、買収および投資にもかかわらず、前年比3,200万ユーロ減の14億8,300万ユーロとなりました」特別項目調整前EBITDAに対する純負債率は、1.3から1.2に微減となりました。これは、長期資金調達と将来を見通した財務リスク管理を特徴とするランクセスの慎重な財務方針を明確に反映しています。

### ケルンにグループ本社の新社屋

ランクセスグループ本社のケルンへの移転計画は予定通り進んでいます。それに伴い、約1,000名の従業員がライン川を臨む約36,000平方メートルの床面積を備える「ランクセスタワー」に移動します。グループ本社の新社屋は、2013年9月3日に開所式が行われます。

### 今後の見通し

2012年度下半期以降の需要低迷は、2013年度のスタートにおいても通常の季節的傾向に反してほとんどの事業分野で継続しています。ランクセスは、欧州のタイヤおよび自動車産業の現在の需要低迷を受けて、2013年度の第1四半期の特別項目調整前EBITDAは、前年同期比で大幅に減少し、1億6,000万ユーロから1億8,000万ユーロの間になると予測しています。この予測には、シンガポールの新ブチルゴム製造プラントの始動コスト(2,000万ユーロ)がすでに織り込まれています。ランクセスは、前年同期の特別項目調整前EBITDAは、3億6,900万ユーロを達成しており、四半期業績では過去最高を記録しています。

第1四半期の事業低迷に伴い、ランクセスは、2013年度通年の特別項目調整前EBITDAは、前年度の記録的なレベルに到達しないと現状では見ています。2013年5月8日に予定の第1四半期業績発表の際、通常通り、2013年度におけるさらに正確な業績予想を発表します。

継続する不安定な市場環境下で、ランクセスは、引き続きコスト縮減と実績ある資本管理に注力します。今年度下半期には需要増加が予測され、その場合、2013年度通年は、再び順調な発展の軌道に乗るものと見込んでいます。ランクセスは、中期利益目標として掲げた特別項目調整前

EBITDA の目標値(2014 年度: 14 億ユーロ、2018 年度: 18 億ユーロ)を維持できると見ています。

ランクセスは、2013 年度の設備投資額を昨年同様、約 6 億 5,000 万ユーロから 7 億ユーロ、研究開発費は前年度の 1 億 9,200 万ユーロから約 10%増を見込んでいます。

ランクセスはモビリティのメガトレンドは継続すると予測しています。また、農薬分野のエンドユーザー市場は、特にアジアにおいて、引き続き順調に展開すると考えています。主にアジアと中南米市場の成長を受けて、建設業界においても緩やかな回復基調に転じると予測しています。仮に、経済成長は緩やかなペースであったとしても、ランクセスグループは、特に BRICS 諸国において、市場ポジションの強化を図ります。

能力増強が完了し 2013 年度に稼働開始となるプラントは、全 3 部門において成長の推進力となるでしょう。「約 4 億ユーロを投じたランクセス最大規模のプロジェクトであるシンガポールの新ブチルゴムプラントは、第 1 四半期にすでに稼働を開始し、第 3 四半期には予定通り、量産開始となります」とハイトマンは述べています。加えて、ランクセスは、4 月より中国において新設の皮革用化学品工場が操業を開始します。3 月初旬には、ブラジルで「エコタイヤ」に使用される高性能ゴム向けの新しいプロジェクトが開始しました。

「現在、状況は特に不安定ですが、ランクセスでは、新興国市場とメガトレンドに注力する戦略的体制が構築されているため、将来を楽観視しています」とハイトマンは述べています。

主要データ(単位: 100 万ユーロ)

	2012 年 通年	2011 年 通年	変動率 %	2012 年 第 4 四 半期	2011 年 第 4 四 半期	変動率 %
売上高	9,094	8,775	+4	2,123	2,123	0
特別項目 調整前 EBITDA	1,225	1,146	+7	239	174	+37
特別項目 調整前 EBITDA マージン	13.5%	13.1%		11.3%	8.2%	
純利益	514	506	+2	51	5	> 100
1 株あたり 利益 (EUR)	6.18	6.08	+2	0.62	0.06	> 100

# # #

これは、ドイツ・レバークーゼンで3月21日に発表されたリリースをもとに、ランクセス株式会社が発表したものです。

この原文(英語)は、以下のURLにてご参照下さい。 <http://www.press.lanxess.com>

**ランクセスについて:**

ランクセスは、世界 31 カ国で事業を展開する大手特殊化学品メーカーです。2012 年の総売上は 91 億ユーロにのぼり、全世界の従業員数は約 17,200 人、世界中に 48 の拠点を展開しています。主な事業は、プラスチック、合成ゴム、中間体、特殊化学品の開発、製造とマーケティングです。ランクセスは、持続可能性に優れた企業を選定する「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス(DJSI World)」および「FTSE4Good」の構成銘柄です。また、気候変動に関して優れた取り組みおよび情報開示を行っている企業で構成される CDLI(Carbon Disclosure Leadership Index: 情報開示先進企業リスト)に選定されています。ランクセスについての詳細は同社 URL にてご確認下さい。 [www.lanxess.co.jp](http://www.lanxess.co.jp)

**本件に関するお問い合わせ先:**

ランクセス株式会社 コーポレートコミュニケーションズ  
TEL : 03-5293-8005 FAX : 03-5219-9773  
[lanxess.japan@lanxess.com](mailto:lanxess.japan@lanxess.com)

**免責について (Forward-Looking Statements):**

このニュースリリースには、ランクセス経営陣による現在の仮定と今後の予測に基づく記述があります。既知あるいは未知の各種リスクや不確定性、その他の要素により、本頁に記載された予測と弊社の今後の総合売上高、財務状況、業績の数字が異なる場合があります。弊社は、ニュースリリースの記載事項を更新、もしくは今後の出来事や進展状況に合わせ、内容を変更する義務はないものとします。

**その他の情報:**

ランクセスのニュースリリースは [www.lanxess.co.jp](http://www.lanxess.co.jp) の「プレスリリース」項目よりご覧ください。また、役員およびその他の写真は <http://photos.lanxess.com> (英語) より入手いただけます。ランクセスの動画および音声、ポッドキャストについては下記をご覧ください。 <http://multimedia.lanxess.com> (英語) ランクセスのウェブマガジンは下記で閲覧いただけます。  
<http://webmagazine.lanxess.com/> (英語)

ランクセスの Facebook、Twitter、Youtube の公式ページは下記サイトをご覧ください。

<http://www.facebook.com/LANXESS> (英語)

<http://www.twitter.com/LANXESSnews> (英語)

[www.youtube.com/LANXESSTV](http://www.youtube.com/LANXESSTV) (英語)

(2011-00033J)